

群馬県
退職校長会だより
第87号

発行 群馬県退職校長会
会長 立見康彦
前橋市岩神町3-1-1
前橋市総合教育プラザ内
TEL 027-235-1574
Eメール t-0017@bi.wakwak.com

編集 広報部
部長 田村悦司
印刷 朝日印刷工業株式会社

令和5年度 現地研修会開催

10月19日(木)

群馬県埋蔵文化財調査センター 参加者 63名

挨拶

会長 立見 康彦



退職校長会の現地研修会が昨年の前橋市の臨江閣に続き、渋川市の群馬県埋蔵文化財調査センターで開催できますことに御礼を申し上げます。

本会にとって、現地研修会は、県内の様々な地域を訪れることができ、大変よい機会になっています。また、会員相互の親睦と情報交換も図れる行事でもあります。

本日は、北群馬・渋川支部が担当となり、事業部とともに企画していただきました。その内容は魅力あるものとなっていると思います。そして、ここに多くの方に参加していただいていることに感謝いたします。

今回の現地研修会では、渋川市北橋町にある県埋蔵文化財調査センター内の発掘情報館を見学していただくとともに、県埋蔵文化財調査事業団の杉山課長様に「古墳時代榛名山二ツ岳の火山災害と復興」と題してご講演を賜ります。私が注目しているのは、古墳時代に生きた古墳人や、活火山榛名山の噴火、火山災害と復興、金井遺跡群の特色と価値です。私は、物事を行っていく上で、大事にしていることは「温故知新」です。今地元自治会長をしておりませんが、特に、地域のことを行っていく上では「温故知新」をもとにしていく

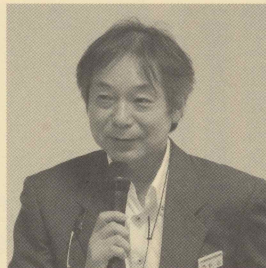


大切さを実感しているところです。本研修会が「温故知新」に結び付くものであればと願っています。県退職校長会の存在意義が問われ

講演 演題

「古墳時代榛名山二ツ岳の火山災害と復興」

公益財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団 課長 杉山 秀宏 先生



榛名山二ツ岳の噴火により被災した人やムラの様子、手工業のこと、災害後の復興についてなどをお話しします。

金井遺跡群は6世紀初頭に1回目の噴火があり、火砕流で壊滅的な打撃を受けました。その数十年後に2回目の噴火があり、1回目の噴火からの復興途上だったところに、再び火砕流や軽石の被害を受けてしまいました。とてつもない速さで火砕流が襲ってきたり火山灰や軽石が降り積もったりしました。

被災した遺跡から出土した4体の人骨については、「甲を着た古墳人」と呼んだ人物がいます。胃を被り、小札甲を着用し、鹿角製小札の胸当てや銀や鹿角で飾られた銚などを装備しているなどから、位の高い人だと分かります。この男性は頬骨がとがっていて顔に厚みがあるところ

ている訳ですが、今日の現地研修会の開催が、その存在意義に込める一つのものとも思っています。本日は、よろしくお願ひします。

から渡来系だというのが分かりました。一方「首飾りをした女性」は四角くて頑丈そうに見えるので在来系だと分かりました。また、この2人は、専門的な分析により西の方から移動してきたことも分かっています。西の方といっても、長野から岡山までの間を指します。長野の伊那谷は馬文化が発達していて馬の飼育ができる人が群馬に來たという説がありますが、現状ははっきりしていません。また、子どもと乳児の骨も出土されましたが、この2人は群馬生まれであることが分かりました。



金井東裏遺跡3号祭祀杯積み重ね

祭祀跡からは、土器や鉄器、鏡、石製玉類、多色・多色のガラス玉など、多量の祭具が出土しており土器や祭具を集積する祭祀後の片づけを示す遺構から、祭祀の後すぐに火砕流が発生したと思われる。

次に手工業生産についてです。鉄器生産については鎌や鎌、斧など多量に出土しました。鍛冶遺構も発掘されたのでムラで生産されたものと考えられます。鹿角器についても日本一の数の多さを示すほど出土されています。これも素材が出土しているものでこのムラで生産しているものと思いますし、その生産能力の高さもうかがい知ることが出来ます。

被災からの復興ということでは、1回目の噴火では火山灰降下後の火砕流で50cmくらい埋もれるなど壊滅的な被害を受けましたが、数十年後には草場ができた馬の飼育が復活しムラができました。また、噴火前はくぼ地で畠だけだったのが火山性泥流により地面が平らになり水田として復活した場所もありました。2回目の噴火後は、大量の軽石降下で、榛名山北東方向の特に榛名山に近い地域では2m近い堆積があり壊滅して放棄されてしまったところもありましたが、堆積が1mほどのところは軽石の層を掘って住居を作ったり、軽石の上には石室を作ったりして復興したところもありました。

最後に、1回目の被災で何とか復興したものの2回



目の被災で、住んでいた土地を放棄したムラがあります。どこか別の場所に移動した可能性が高い。南の吉岡・榛東地域は、1回目の噴火の大打撃を受けた北東麓の代わりに、榛名山麓の開発を行うリーダーが埋葬されたと思われる前方後円墳があります。また、この地域には急激に古

墳の増加を見るなど人口の増加を示すものもあります。

一方、北側の沼田の奈良古墳群には馬具副葬古墳があり、馬文化の発展につながる集団が急に出現したことが分かります。

このように、被災後、南と北に多く移動したと考えています。

「ぐんま教育の日」推進大会 11月18日(土) 講演及び地域連携の推進に関する実践事例発表会

前橋市第三コミュニティセンター 参加者107名

挨拶

会長 立見 康彦



本日は、令和5年度「ぐんま教育の日」推進大会が、県教育長様をはじめ御来賓の皆様、関係者の皆様、会員の皆様、多くの皆様にお集まりをいただき、このように盛大に開催できますことに對しまして、心より感謝と御礼を申し上げます。

今年度で連続17回目の開催になりますが、目的は「ぐんま教育の日」の趣旨と活動の理解を一層深めていただくことであります。「ぐんま教育の日」を制定している市町村には、その活動の充実を期待しているところです。未制定の市町村には制定の気運を高めてほしいと願っています。

同じくするコミュニティスクールの推進のために、御支援と御協力を賜れますようお願いする次第です。

そして、繰り返しますが、これを機会に、「ぐんま教育の日」の推進と充実・発展を願いまして、開会の挨拶とします。

県下で「コミュニティスクール」が推進されている訳ですが、その趣旨と「教育の日の制定」の趣旨とは同じであります。そのことから、未制定の市町村は、「教育の日」を制定して、コミュニティスクールを推進してほしいと思います。

本日は、「SDGsを取り巻く状況について」学校で学び社会で実践する」と題して、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟理事長の鈴木佑司様より御講演を賜ります。それに次いで、地域連携の推進に関する実践事例として、桐生市立境野中学校及び県立勢多農林高等学校より発表していただきます。講評は群馬大学大学院教育学研究科客員教授の平林茂様です。どうぞよろしく願います。

御参会の皆様には、制定市町村が展開する教育の日推進事業と趣旨を

祝辞

群馬県教育委員会

教育次長 栗本 郁夫



令和5年度「ぐんま教育の日」推進大会が開催されるに当たり、

心からお祝い申し上げます。また、群馬県退職校長会並びに一般財団法人群馬県教育振興会の皆様方をはじめ、御参会の皆様方におかれましては、日頃から、本県の教育行政の推進に御理解、御協力を賜り、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、社会の急激な変化に伴い、教育現場は大きな転換期に面しています。令和3年度より、全ての小中

